主は、生きておられる

Unser HERR lebt



2016
graph magazine vol.40

Unser HERR lebt

Unser HERR lebt
主は、生きておられる

まことに、まことに、あなたに告げます。
人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。（ヨハネ3・3）

vol.40 定価100円（税込み）

Unser HERR lebt
主は、生きておられる

メッセージ

4 勝利の生活の秘訣…内なる人　ゴットホルド・ベック

10人の証し

18 子どもたちよ。キリストのうちにとどまっていなさい　野田尚広

24 主は決して忘れず、見放さない　野田泉

33 家族を一つにしてくださった　重枝宏英

41 私にとっては神の近くにいることが幸せなのです　重枝由紀子

51 主と共に歩む決心　渡邉航

59 イエス様、ありがとうございます　清水洋一

67 ことばは神であった　清水總子

71 主イエスを信じなさい。
そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます　神田啓子

77 悪魔との闘いの勝利者イエス様　板垣知夫

86 イエス様の尽きぬ愛に感謝　板垣輝子

勝利の生活の秘訣…内なる人

ゴットホルド・ベック

私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。

（2コリント　4・16）

今回は、ローマ人への手紙6章6節、コリント人への手紙第一の2章2節、ガラテヤ人への手紙2章20節、コリント人への手紙第二の4章をもとに「勝利の生活の秘訣」を学びたいと思います。

多くの人々が主を信じ受け入れてはいるものの、霊的に進歩しないのはなぜでしょうか。それは、自分の生活を「自我」に支配させたままでいるからに他なりません。信仰を与えられたすべての人は、遅かれ早かれ、自分の信仰生活の妨げとなるものが生活環境や他の人々にではなく、自分の心の内にあるということに気づかされます。

私たちの内には二つの相逆らういのちがあります。御霊によって新しく生まれたキリスト者は、永遠のいのちを与えられています。が、しかし、私たちの生まれながらのいのちは、この新しく与えられた神のいのちを覆い隠そうとします。聖書では、この生まれながらのいのちを「外なる人」と呼び、神のいのちを「内なる人」と呼んでいます。コリント人への手紙第二の4章を見てみましょう。

こういうわけで、私たちは、あわれみを受けてこの務めに任じられているのですから、勇気を失うことなく、恥ずべき隠された事を捨て、悪巧みに歩まず、神のことばを曲げず、真理を明らかにし、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています。それでもなお私たちの福音におおいが掛かっているとしたら、それは、滅びる人々のばあいに、おおいが掛かっているのです。そのばあい、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。

私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。私たち自身は、イエスのために、あなたがたに仕えるしもべなのです。「光が、やみの中から輝き出よ。」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。

私たちは、この宝を、土の器の中に入れているのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれていますが、行きづまることはありません。迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。いつでもイエスの死をこの身に帯びていますが、それは、イエスのいのちが私たちの身において明らかに示されるためです。私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されていますが、それは、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において明らかに示されるためなのです。

こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働くのです。「私は信じた。それゆえに語った。」と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っている私たちも、信じているゆえに語るのです。それは、主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、あなたがたといっしょに御前に立た

せてくださることを知っているからです。すべてのことはあなたがたのためであり、それは、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現われるようになるためです。

ですから、私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。私たちは、見えるものにではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。（2コリント　4・1〜18）

主を信じ従って行こうとする人は、自分の生まれながらのいのちである「外なる人」によっては主に喜ばれる生活をすることができない、という体験をするときがやって来ます。同じ失敗を繰り返し、同じ罪を犯して、自分自身に絶望してしまいます。けれども、これは、私たちが霊的に前進し実を結びたいと心から願うなら、必然的に経なければならないことです。熱心な信仰をもち、一生懸命祈っている人であっても、この霊的破産を通されなければ、主に用いられることはありません。これについて次の四つの点、（1）「外なる人」と「内なる人」、（2）「死」によって実を結ぶこと、（3）壊された器、（4）明け渡すこと、から考えてみましょう。

1「外なる人」と「内なる人」

パウロは「ローマ人への手紙」にこう書いています。

私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいるのに、私のからだの中には異なった律法があって、…

（ローマ　7・22〜23）

主の救いにあずかったパウロは、主イエス様のみこころにかなう生活をしたいと希求しています。そしてエペソの兄弟姉妹たちに、次のように書き送っています。

どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいますように。（エペソ　3・16）

パウロは「エペソの愛する兄弟姉妹たちよ！あなたがたはすでに救われているが、あなた方の『内なる人』がさらに強められるように」と祈っているのです。また、コリントの兄弟姉妹たちにも、冒頭に記したみことばを書き送っています。「外なる人」が衰え、「内なる人」が日毎に新しくされていくよう、日々上から新しい力を受けなければなりません。

これらのみことばからも分かるように、救いにあずかった人々には「内なる人」と「外なる人」があります。聖書でいう「外なる人」とは自我のいのちです。「内なる人」とは主である神様によって新しく与えられた神のいのちであり、主イエス様ご自身です。

バプテスマのヨハネは「あの方は盛んになり私は衰えなければなりません。」（ヨハネ　3・30）と言いました。「あの方」とは「内なる人」つまり神のいのちであり、「私」とは「外なる人」すなわち自我のいのちを表しています。

私たちが主イエス様に仕え、霊的に前進しようと思うなら、「内なる人」すなわち内住の主イエス様が自由を持たされなければなりません。「内なる人」が「外なる人」によって縛られていては、実を結ぶご奉仕ができません。内住のイエス様は、私たちの内で現実に「主」となり「支配者」となりたく思っておられます。また主イエス様は当然そうなるべき

勝利の生活の秘訣…内なる人

お方です。

大切なことは、私たちの内にイエス様が「支配者」となっておられることです。ところが、私たちの「内なる人」はときどき、牢屋に入ったように縛られてしまっています。「内なる人」は自由でなければなりません。内住の主イエス様が私たちを自由に支配なさるその度合いに従って、私たちは主イエス様のために役に立つ者となり、主の目に尊い者とされるのです。

この世で「外なる人」、自我のいのちを満足させようと努める人は大勢います。大部分の映画、テレビ番組、娯楽雑誌は、「外なる人」を満足させるためにできています。このような世の中で、主イエス様の救いにあずかった私たちは、「内なる人」を養うために何をしているのでしょうか。

「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いてある。」（マタイ４・４）とイエス様はおっしゃいました。果たして私たちは本当に、主の口から出ることばによって生きているでしょうか。

主から離れてしまったキリスト者を見ると、主のみことばをいただいても、それによって生かされていかなかったため、信仰の闘いから落ちてしまったことが分かります。ただ漫然と聖書を読むだけで、もっとよく主を知ろうと心がけて聖書の中に主イエス様の御手を求めようとしない人は、正しい成長ができません。御霊によって正しく聖書を学び、正しく祈りをしないキリスト者は、何年たっても同じ所にとどまったままです。私たちもパウロのように、「外なる人」は衰えても「内なる人」は日毎に新しくされていく、と言えるなら幸いです。

2「死」によって実を結ぶこと

次に、「死」を通して実が結ばれることを見てみましょう。次のみことばはよく知られています。

> まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのままです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世でそのいのちを憎む者はそれを保って永遠のいのちに至るのです。
>
> （ヨハネ　12・24～25）

一粒の麦にはいのちがあります。しかし、そのいのちは堅い殻によってしっかりと包まれています。いのちが外に現れるためには、殻が破られなければなりません。大切なことは、殻を破っていのちが現れることです。殻は私たちの「外なる人」、自我のいのちを表し、殻の中にあるいのちは「内なる人」すなわち神のいのち、主イエス様ご自身を意味しています。主のいのちが自由にされるには、自我のいのちが小さくされなければなりません。

しかし、多くの人々はただ「自我のいのち」しかもっていません。主である神様のいのちについては何も知りません。主イエス・キリストに出会った人だけが永遠のいのちをもっているのです。みことばは言っています。

> 御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。（１ヨハネ　5・12）

大抵の人は器だけを、つまり「外なる人」だけを見ています。けれども私たちは、「内なる人」、器の中に入っているナルドの香りを尊びたいものです。

主を信じている人々にも二種類あります。すべて

勝利の生活の秘訣…内なる人

のキリスト者は主イエス様を内に宿し永遠のいのちをもっていますが、ある人々は内なる主が押しつぶされてしまって、外に現れません。一方、ある人々は主が心の内を自由に支配なさり「内なる人」が外に現れています。キリスト者にとって問題なのは、どのようにして永遠のいのちを受け取るかではなく、永遠のいのちが「私たちの内で自由をもつ」ことです。救いにあずかった人々の「内なる人」が外に現れてはじめて、他の人へ救いをもたらす器となることができます。多くの実を結ぶためには、まず、死なければなりません。一粒の麦が死ぬには、地に蒔かれ、土の中に埋められます。殻が腐って元の形をとどめなくなるとき、新しいいのちが実を結ぶことになります。このように「死に切る」ことができるなら、私たちもまたパウロと同じように経験し、次のように告白することができるのです。

私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されていますが、それは、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において明らかに示されるためなのです。

（2コリント　4・11）

3 壊された器

福音が宣べ伝えられるところでは世界中のどこでも、その人のしたことが語られるとイエス様がおっしゃった出来事があります。

イエスがベタニヤで、らい病人シモンの家におられたとき、食卓についておられると、ひとりの女が、純粋で、非常に高価なナルド油のはいった石膏のつぼを持って来て、そのつぼを割り、イエスの頭に注いだ。すると、何人かの者が憤慨して互いに言った。「何のために、香油をこんなにむだにしたのか。（もったいない）」

（マルコ　14・3〜4）

マリヤは、非常に高価な、純粋なナルドの香油三百グラムを取って、イエスの足に塗り、彼女の髪の毛でイエスの足をぬぐった。家は香油のかおりでいっぱいになった。

（ヨハネ　12・3）

しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちを導いてキリストによる勝利の行列に加え、至る所で私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを放ってくださいます。

（2コリント　2・14）

マリヤが持つ薫（かおり）高いナルド油の薫りが家中に満ちる前に、器が壊されなければなりませんでした。もし、器が壊されていなければ、薫り高いナルド油は匂わなかったでしょう！

多くのキリスト者は、器の中の香油をしっかりと握ったまま、信仰生活を送っているようなものです。主イエス様を受入れて、永遠のいのちを与えられていますが、いのちを外に現していくことをしません。「見えるところは敬虔であっても、その実（じつ）を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。」（2テモテ　3・5）と言われないようにしたいものです。

多くの兄弟姉妹の問題は、中身よりも器を大切にしているところにあるのではないでしょうか。熱心であればそれでよいと思い、それが肉の力であるかどうかを見分けようとしません。またこの世の教育や地位などを問題にします。彼らは器だけを見、「外なる人」だけを見ています。

私たちは土の器であり、「内なる人」は主ご自身です。生まれつきの賜物や能力は主のご支配の下になければ何の役もなさないものです。ですから、まず、砕かれることが大切です。私たち自身は消えて

勝利の生活の秘訣…内なる人

なくなってもいい、ただ、内に住んでおられる主イエス様が私たちを通して現れていくことが重要です。

主の御霊は休みなく私たちに働きかけておられます。御霊は私たちを導いて、私たちが自我に死に切り、完全に砕かれ、ただ主イエス様の御栄えのために主の道具として用いられる者となるよう導いておられます。「外なる人」は衰え、堅い殻は砕かれなければなりません。なぜなら、死ななければ実を結ぶことができず、霊的破産なくしていのちと祝福をもたらすことはできないからです。このことを深く主イエス様に教えられて知っている人は幸いです。

私たちは少しでも困難がくると不平を言い、つぶやき、度を失ってしまいます。しかし、主は一つの目的をもって、私たちの内で働き続けておられます。それは器の中にある永遠のいのち、「内なる人」が自由に外に現されていくために、「外なる人」が壊されることです。土の器の中にある「宝」が外に現れ出なければなりません。今の時代が緊急に必要としているのは器ではなく、外に溢れ流れていく主なる神のいのちです。また、この世が真に求めているものは救い主、主イエス・キリストの光です。

「光が、やみの中から輝き出よ。」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。

（2コリント　4・6）

「外なる人」が死に、「内なる人」に生きることは、悩みを通してのみ可能です。もし、私たちが本当に主に仕え、周囲の人々に祝福をもたらしたいと願うなら、自我のいのちを捨てなければなりません。

自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。自分のいのちを自分のものとした者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失った者は、それを自分のものとします。

（マタイ　10・38〜39）

主の救いにあずかった大勢の人々が、自分に対する主のみこころが何であるかを知らずにいることは、大きな悲劇です。私たちは、私たちに対する主のご目的を深く知りたいものです。私たちの心の目が主のご目的に開かれるなら、問題や悩み、苦しみは、私たちの内に、また、私たちを通して、内に住んでおられるイエス様が現れるためであることがわかるでしょう。

私たちの過去に起こった出来事で、むだなことは一つもありません。主イエス様はいつも、最善の道を歩ませてくださいました。どんなに苦しかったときも、真っ暗で途方に暮れたときも、主イエス様は最善をなしていてくださったのです。これらすべてのことは、ただ一つ「主イエス様が栄え、私たちは衰える」ためになされてきました。

主イエス・キリストの霊が私たちの内に自由を得るために、「外なる人」は砕かれなければなりません。主イエス様はこの目的に向かって私たちを導いておられます。その導きは一人ひとり違っていて、ある人には早く、ある人には遅く主は働かれます。しかし大抵の場合、私たちが心の内に主のご支配を妨げるものをもっているので、主は前へ導くことがおできになりません。もし、まだ、主に捧げていないものがあるなら、きょう、それを主にお捧げしましょう。

「主イエス様、あなたのために、兄弟姉妹のために、まだあなたを知らない人々のために、私のすべてをあなたに捧げます。あなた様が私の内で自由に働かれ、私を通してあなた様のいのちが外に現れることができるように、自分自身をあなた様にお捧げいたします」と完全に主に明け渡す恵みにあずかり

勝利の生活の秘訣…内なる人

自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世でそのいのちを憎む者はそれを保って永遠のいのちに至るのです。（ヨハネ　12・25）

ここでの自分のいのちとは「外なる人」のことです。人がそのいのちを憎み、捨てるとき、真の意味で生かされ、主イエス様のいのちが現れ出ます。自分の権利を主に捧げる「自己否定」があってはじめて実を結ぶいのちとなります。

わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。（マルコ　14・36）

これが、主イエス様の生涯変わらない姿勢でした。だからこそ、主イエス様から恵みが流れ出、いのちの泉が人々に分け与えられていたのです。同じように私たちも、自分の考え、感情、意志のすべてを主のご

たいものです。

最後に明け渡しと主の聖めについて短く触れたいと思います。

4 明け渡すこと

私たちは、自分自身に対して恐れをいだいた経験があるでしょうか。たとえ救われていても、どんな悪いことでも行う可能性をもっていることに、気づいたことがあるでしょうか。巨人ゴリアテに匹敵するような自我、自分の前に立ちふさがり、どうしてもそれに勝つことができず、パウロのように「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」（ローマ７・24）と嘆き悲しんだことがあるでしょうか。

主イエス様は言っておられます。

支配の下におくなら、私たちの内からいのちの泉が湧き出てくるはずです。私たちの生まれながらの考え、感情、意志は霊的ではありません。これを御霊の支配にゆだねる時に初めて、それはみこころにかなうものとなります。それらを主イエスに様に捧げることにより、霊的なものになり、私たちの内から主のいのちが流れ出るのです。自分を主イエス様に捧げる決心をすることは、一人ひとりの問題です。「主よ。私は自分に絶望しています。あなた様のみこころにかなうことを、自分からは何もすることができません。どうかあなた様が私を通してご自身のみこころをなしてください」と祈りたいものです。

旧約時代、アブラハムはイサクを捧げる前にイシュマエルを捧げました。ところが多くの救いにあずかった人々は、反対のことをしています。つまり、イシュマエルを捧げようとせず、イサクだけを捧げて自らの肉の力で主イエス様に仕えようとしているのです。

主の聖（きよ）めは、罪からの解放よりも深く大きいものです。それは自分の意志と権利を主に捧げ、自分の支配を主イエス・キリストにゆだねることです。アブラハムは勇気を奮い起こしてイシュマエルを荒野に捨てました。その後でアブラハムにもたらされた主の祝福はとても大きいものでした。アブラハムの勝利の生活を送るためには、私たちもアブラハムと同じように、自分の最も愛するものを主に捧げることです。

ドイツのアイドリンゲンにある神学校の校長だったヘデ姉妹は、自分の生まれながらの性質に非常に悩んだことがありました。というのは、いつも悪魔に試みられ、「お前は繰り返し、繰り返し同じ失敗をしている。お前はもうだめだ」と悪魔が囁（ささや）くのです。ところがある日、姉妹は自分の古い人が十字架につけられた夢を見ました。その後でまた悪魔が攻撃してきましたが、そのとき、十字架につけ

られた姉妹自身を指し示したところ、悪魔は退散していったということです。

ある兄弟は、八年間集会から離れていたのですが、再び集会へと戻ってきました。そのとき彼は、「私は十字架につけられていなかったのです」と告白しました。十字架を見上げれば、主イエス・キリストと共に私たちの古い人もそこについているのです。

私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが滅びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。（ローマ　6・6）

悪魔が攻めてきても、私たちはこのみことばをもって立ち向かうことができます。主イエス様の勝利は完全です。主イエス様は私たちの古い人と共に十字架で死んでくださいました。もはや私たちが生きているのではなく、甦（よみがえ）った主イエス・キリストが私たちの内に生きておられるのです。悪魔は私たちに対して何の権威も持ちません。「悪魔よ、退け！」と言うことができます。

私たちの抱えている問題が何であろうと、主を信頼しましょう。主イエス様のご臨在を深く心に憶えるまで主の御前に静まり、主のご臨在を確信したならば、みことばを開いて、主のみ声を聞きましょう。そうし続けるなら、日々「内なる人」は新たな力を上からいただき、勝利の生活を送ることができるようになります。